

# EIWA UNIVERSE

Xmas 礼拝	1
学長からのあいさつ	2
4つの学科から	3
課外活動と楓祭	4
キャリア支援室便り/教務課便り	5
らいぶらりーず・さろん (図書館報)	6-7

12月16日、新館5階講堂で、クリスマス礼拝を行いました。礼拝はまず、聖歌隊による『心に主イエスを』の美しい賛美から始まりました。今回のクリスマスには、アメリカ福音ルーテル教会の宣教師であるキャロル・サック先生が来校していただき、『神様からの子守歌』と題したお話とクリスマス・キャロルやアイルランド、スコットランド、ウェールズなどの美しい子守歌のハーブ演奏をしていただきました。これまでのご体験と、「祈る」ことの大切さ、そしてハーブによる音楽療法など、考えさせられるお話と、先生の透き通るような美しい歌声に合わせた神秘的なハーブの演奏は、チャペルに集まった者にとって、最大のクリスマス・プレゼントとなりました。最後に、この礼拝で、聖書朗読、受付、献金当番、献金のお祈りにおいて多くの学生たちが奉仕したことを付記しておきます。

(宗教主任 伊勢田奈緒)



## SHIZUOKA EIWA



静岡英和学院大学  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

静岡英和学院大学短期大学部  
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

企画・編集 学報委員会

<http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp>

TEL 054-264-8872

FAX 054-263-4763

## 居心地の良い大学です

学長 武藤 元昭

この11月から本学に参りました。再び働きの方と与えられた恵みに感謝しております。暖かい雰囲気の中で仕事をさせていただく幸せも味わっております。

前任の青山学院大学でも、神の建てられた大学という思いで研究と教育に取り組んでおりましたが、本学でも同じ思いで仕事をして行きたいと考えております。

現在、大学は非常に厳しい状況に置かれています。殊に私学にそれは顕著です。少子化による受験生の減少と、それに伴う入学定員確保の困難、更にそこから来る入学生の学力低下等。本学も厳しさに於いては例外ではありません。しかし、こういう時こそ私学の建学の精神が意味を持つのです。

国公立と異なり、私学には独自の特色ある建学の精神があります。創立者の高い志があります。言うまでもなく、本学はキリスト教信仰に基づく愛と奉仕の精神をその底流に持っております。本学の全てはここから出発しなければなりません。他の多くの大学とはそこが違うのです。本学に学ぶ学生諸君は、そのことに自覚を持たなければなりませんし、そのことに誇りを持たなければいけないのです。諸君は選ばれた人達なのです。

大学での過ごし方は、人それぞれです。しかし将来の夢の実現を図って過ごしているという点では、共通しているはず。所属する学部学科はその為にあるのです。もちろん、学部学科で学んだことがそのまま夢と直結するというのは稀です。それは仕方がないことです。福祉のような仕事なら、大学で確実に知識を身に付け、実践に役立つ技術を習得する必要があるでしょう。そうであったとしても、大学で学ぶことはもっと幅が広いのです。社会に出て、社会に対応できるだけのものを身につける必要があるのです。もっと端的に言ってしまうと、それは人間性ということになるでしょう。

この世の中は、結局は人と人との関係で成り立って

いるのです。学生時代の友人関係はもちろんのこと、社会に出てからの人間関係も同じことだと思います。私は、この大学に関わる皆様は、その点全く心配ないと考えております。前触れもなくいきなり学長として本学に参りました私は、本学に素直に融け込んでいけるか一抹の不安を感じておりました。しかしそれは杞憂でした。大学全体の雰囲気も、学生諸君の穏やかさも、教職員の皆様の接し方も、全てが私を素直にして下さいました。それはやはり、この大学に流れるキリスト教に基づく伝統の力の所為だろうと思います。そういう大学に暮らす諸君なのですから、社会からも同様に迎えられると信じております。企業等が一番気にするのも、人間性です。前任校で、私は文部科学省、日本経団連と就職活動の問題で話し合う会議の議長を務めておりましたが、企業等の欲している人材というのは、何より深い教養に裏づけられた人間性豊かな人物だということが伝わってきました。その点で、私は本学の将来に大いに期待しております。



# 人間社会学科ニュース

## 日本文化フィールドワーク研修旅行

人間社会学科では9月13日から15日にかけて、「日本文化フィールドワーク」加賀越前研修旅行を行いました。これは、事前講義を受講した後、研修旅行で実地踏査をし、その成果をレポート提出するというものです。学生9人、教員2人が参加、ひがし茶屋街、香林坊、近江町市場、兼六園、白山比咩神社、越前竹人形の里、永平寺、あわら温泉、三国、東尋坊を巡りました。室生犀星や泉鏡花の文学ゆかりの風土に触れ、充実した3日間を過ごしました。



## 天野ゼミ合宿の様子

天野ゼミ（観光専攻）では、夏にゼミ合宿を行いました。観光地の現地調査を実践するべく、自分達でゼミ旅行の行程、調査計画、現地でのガイド体験や聞き取り調査などを企画し、合宿に盛り込んでいます。本年度は、福岡県柳川市・大分県日田市を調査対象地として選定し、9月に7泊8日の調査合宿を実施しました。写真は、柳川の川下り船頭と観光ボランティアガイドの方への聞き取り調査の風景です。



# 地域福祉学科ニュース

## 社会福祉士国家試験に向けて

現在、地域福祉学科では社会福祉士国家試験合格を目指す4年生が2010年1月末に行われる試験に向け、必死に勉強をしています。今回は、自主的勉強会の取り組みについてご紹介します。

昨年の合格率は、全国平均29.1%に対し、本学4年生は31.3%と好成績。合格した学生の多くが、この自主的勉強会に参加していました。今年は9月から、有志の教員と4年生約30名でスタートしました。毎週火曜・木曜は、教室に集まり、試験対策の講義を受けたり、何冊もの問題集を解いてきました。勉強会も追い込みの時期に入り、参加する学生の表情も日に日に真剣に引き締まっています。

合格発表は3月中旬。皆さんの努力が報われ、夢が叶うよう応援しています！



## 授業で学んだこと

現代コミュニケーション学科1年 斎藤有佳里

私はホテルユニットとプライダルユニットを選択しています。後期の授業では、主にホテルサービス論、心理学やコミュニケーションについてのことを学びました。

ホテルサービス論の授業では、実際にホテルに行って、その仕事を目の当たりにしました。私はそこで働く方々が、お客さまのことを一番に考えて行動し、名前をすぐに覚えたり、食事のときにお客さまが求めているサービスをすばやくしたりする姿を見て、ホテルの仕事は過酷でもそれ以上にやりがいを感じることができる職業なのだとことを改めて知りました。そして、サービス業への関心がさらに大きいものになりました。また、ホテルで働くには英語が話せなければいけないので、今まで以上に英語の勉強に力を入れて取り組む努力もしました。

次に心理学やコミュニケーションの授業では、“人はそれぞれ違ったものとのらえ方や感じ方、価値観などをもって、それが同じ人はいないということ”、“マイナスの考えをプラスの考えにする方法”、“考え方の違う人同士がどうすればより良いコミュニケーションをとることができるのかということ”など、日常生活の中で活かせる様々なことを学ぶことができました。また、お客さまの気持ちを汲み取って行動することがサービス業で働く場合にも、知っておくとよいものだと思います。

# 現代コミュニケーション学科ニュース

## 食物学科ニュース

新年を迎え、二年生の学生生活も残り僅かとなりました。最後の期末試験や就職活動に頑張っているところです。また、一年生は最初のコース振り分けに向けて、キャリアデザイン演習などの科目に取り組んでいます。（食物学科では2009年度入学者より「栄養士・フードスペシャリストコース」と「栄養士・フードサイエンティストコース」を立ち上げました。）

一年生についても、早々と就職活動がスタートしています。将来の自分の姿を想像しつつ、積極的に取り組んで欲しいと思います。

### 最近の出来事から

\* 新コースへの振り分けに向けて、キャリアデザイン演習が行われました。最後の授業(12/18)では、栄養士として働いている先輩のお話を聞くことができました。

\* 12月13日に二年生に対して、栄養士実力試験が行われました。

\* 11月7-8日に楓祭が行われました。食物学科一年生は、「春雨スープ」と「ラスク」のお店を出しました。食物学科ならではの「春雨スープ」



は好評だったようです。

\* 10月に二年生の工場見学が行われました。今回は大塚製薬袋井工場とロック・フィールド静岡ファクトリーを訪問しました。

## 課外活動 ～サークル紹介～



本学では大学と短大部含めて約 500 名の学生が、体育系サークル 15 団体、文化系サークル 14 団体、合計 29 団体に所属しています。

活動団体の中には毎日活動している団体もあれば、少ない活動時間で限られた施設およびスペースを有効活用している団体もあります。

各団体とも日々の活動の成果の場として、対外試合を行ったり定期演奏会で日頃の練習の成果を披露したり、学園祭に向けて作品を制作したりと活躍の場は様々です。

そんな中、先日本学ではクリスマス礼拝が行われ、キャロル・サック先生によるご高話とハープ演奏などにより学生・教職員が御子の御降誕を祝いました。

礼拝終了後には、ダンスサークルが日頃の練習の成果を披露し、チャリティーダンスを行いました。チャリティーで集まった献金は、「Knk Japan 国境なき子どもたち」へ寄付されました。“国境なき子どもたち”は開発途上にある国々のストリートチルドレンや大規模自然災害の被災児など、恵まれない青少年を支援する NGO 団体で

す。

ダンス部は 20 名の部員で、週 2 回の合同練習に加えて自主練習も行っています。練習では 4 枚の全身鏡で動きを確認しながらヒップホップ・レゲエ・ジャズ・ロック・ブレイクなど多彩なダンスを繰り広げています。

福祉施設などの訪問に出向き、高齢者や障害を持つ方々と交流を深めながらダンスを披露し、課外活動を通して社会貢献にも取り組んでいます。このような活動はダンス部に限らず、他の課外活動団体も複数行っています。活動を通して良き友人・先輩・後輩に出会う事が出来、課外活動が大学生活をさらに豊かで有意義なものにしてくれることでしょう。

また、活動の中で人間関係を通して道徳観、責任観、忍耐力、決断力、適応力、行動力、協調性など複雑化・多様化した社会の中で生き抜くための基本的な能力を身につけ、卒業後の進路や今後の社会生活の中で役立つことであると期待されます。



### 第 44 回楓祭がありました

夫が成されていました。学生にとって、とても充実した学園祭になったことと思います。

また、文化祭二日目にはお笑いライブがあり、我が家・

講堂の座席はすべて埋まり超満員の会場は笑いに包まれ、楽しい一時を過ごせました。

二日間を併せて、延べ 2000 人を超える来場者があり、英和学院大学のキャンパスは大勢の観客と学生で賑わい、笑い声の絶えない日となりました。

今年の楓祭のテーマは ENJOY。テーマの通り、来場して下さったお客様も学生もみんな一緒になって楽しみ、キャンパス全体が笑顔あふれる明るい学園祭をテーマに、楓祭実行委員が中心となり準備を進めました。

そして、今年は念願の新校舎が一昨年末に完成し、一段と充実したキャンパス内での開催となりました。

当日は、晴天に恵まれ、盛会裡の内に学園祭を終えることが出来ました。

模擬店については、例年出展し、円滑に作業・販売を進める団体、今年初めての出展で色々苦戦している団体とそれぞれでしたが、どの団体を見ても創意工



フォーリンラブ・ハライチというバラエティー番組を賑わす 3 グループが本学にてライブを行い、



キャリア支援室  
便り

内定者から  
在学生へのメッセージ

人間社会学科 4年

鈴木 沙耶子 (すずき さよこ)

私が就職活動を本格的に始めたのは3年生の11月後半頃でした。夏休みにインターンシップに参加して自分の働きたい業種、職種、企業というものが漠然と見え始め、10月から就職サイトに登録、そこから合同企業ガイダンスと会社説明会に参加するようになりました。年が明ける頃には私のスケジュール帳は授業のレポート提出期限と就職活動の予定でびっしりと埋まり、残りの僅かな時間にもアルバイトが入りますから空いている日は皆無に近い状態でした。1～2月は合同企業ガイダンスと会社説明会を中心に回り3月以降からは選考会になりました。2～3日おきにエントリーシートの締め切りが迫りキャ

リア支援室に入り浸る日が続きました。4月～5月が選考のピークで毎日もしくは1日に2～3社の選考を受ける日もありました。1次試験であっさり不合格となることや最終選考まで残っても内定に辿り着かないという結果を受け取る日が続き、5月の後半からは内定が取れないことに嫌気が差し「もういやだ!」と思ってしまうときがありました。

小さいことでも良いから就職活動の進め方を変えてみようと思ひ、今まで就職情報(インターネット)サイトだけから入手していた求人情報に加え大学のキャリア支援室に出されている求人にもエントリーしてみました。大学への求人は過去に先輩方を採用した企業が多いため好意的に受け入れてくださいます。私が内定をいただいた企業も県内の大学等に直接、求人を出していたためキャリア支援室を利用して本当に良かったと思ひました。

就職活動のポイントは幅を狭くしすぎないことです。「私はこの仕事をしたい」という明確な目標を持つことは大事ですが、そればかりにこだわってはいは業種の幅も狭くなりますし、企業の求める「様々なことに対応で

きる人」から漏れてしまいます。やりたいことのベースは決めておいても様々な企業を見てください。興味があまりなかった企業でも実際に会社説明会に行くことで意外な一面を発見できる場合もあります。また、就職情報サイトだけに頼らず、私のようにキャリア支援室の求人にも積極的にエントリーするのが良いと思います。

面接が苦手・不安という方が多いと思ひます。確かに企業のトップの方と話すのは緊張することですが、これほど自分を売り込み、企業を理解できる場はありません。自分が「見られている」のではなく、自分が「企業を見極める」のだと見方を変えると少しリラックスし客観的にとらえることができます。ぜひ面接を楽しんでください。

就職氷河期の再来と言われていますが、売り手市場ではない今だからこそ企業は大学の名前よりも人物の中身をしっかりと見てくれます。SPI試験が苦手でも面接で十分に挽回のチャンスはあります。内定がなかなか獲得できず落ち込むこともあるかとは思いますが、絶対に諦めず自分が納得できるまで就職活動を続けてください。



教務課便り

GPA 制と  
CAP 制について

本学での成績評価は、従来、優、良、可、不可の4段階で行われてきましたが、より厳格で明確、客観的な評価方法として Grade Average Point (GPA) を採用しました。

GPA 制では、各科目のシラバスに示された評価の方法・基準に従って出した総合点が、90 点以上なら評価は S (4 Grade Point)、80 点以上は A (3GP)、70 点以上は B (2 GP)、60 点以上は C (1GP)、50 点以下は D (0 GP) とします。次に、各履修科目の評価の GP と単位数を掛け合わせものの総合計を、履修単位数の合計で割って出した数値が GPA です。なお、S-C は合格、D は不合格となります。

GPA は、学生の学習意欲の喚起や個別の学習指導に役立て

られ、将来は卒業判定等の資料としても用いられます。

上記 GPA で得られた数値により、1 年間の履修単位数に上限を設ける制度が、CAP 制です。講義 1 単位には、45 時間に相当する学修内容が必要とされます。あまりにも多くの単位数を履修すれば、45 時間の学修が確保できなくなります。また、GPA の低い者は、履修した科目が十分学習できていなかったことを意味します。そこで GPA に応じて履修単位数(履修科目数)に制限を設け、適正な履修単位数(科目数)をじっくり学習していただくというのが CAP 制です。CAP 制の詳細については、学科ごとに取り決めてあります。「履修要項・講義内容」を参照してください。

# らいぶらりーず・さろん No.2



## 「『旅』をする」ということ

人間社会学科 講師 天野景太

先日、静岡県の大学生有志が発行しているフリーマガジン『静岡時代』の学生記者の取材を受けた。「旅と人生」という特集を計画中だが、その一環で前近代社会における旅人のメンタリティについて色々知りたいという。いわく、「旅の動機の本質は『未知なるものへの好奇心』のはず。ところが、現在隆盛を誇っているルーチン化された商業観光にはそれがみられない。そんな今日の旅のあり方に、この特集を通じて疑問を投げかけたい」とのこと。

しかしそもそも「旅」とは一体何か？ここではそんな大仰なテーマを論じてみるつもりはないが、さしたって辞書的な定義は、さまざまな土地を移動することに尽きている。ところが、この用語は人がさまざまな出来事、知識などに会うプロセスのメタファ(隠喩)としてもよく用いられている。たとえば「人生という旅の途上」とか「空想の世界を旅する」とか「活字の世界を旅する」とか…。なぜならそれは、「人生を生きる」「思索に耽る」「読書をする」といった行為が、「未知なるものとの邂逅」を伴い続けるかもしれないものだからに他ならない。未知なる異質なものとふれあい、そこから新たなひらめきを得たり、何かを感じ取ったりすること。それが「旅」という言葉に込められた含蓄なのだろう。この意味で、先に記した

学生記者の「旅」観は、言い得て妙というわけである。

けれども、ナップサック片手に世界を放浪したり、気ままな一人旅をすることこそが旅の真骨頂であり、レディメイドの旅行会社のパックツアーに参加するのは邪道なのかというと、そういうわけでもないだろう。パックツアーであっても、大半が予定調和的とはいえず、その過程で「未知なるものとの邂逅」の機会は存在する。重要なのは、旅の「形式」がどうであれ、旅人がその途上において、自らの出自、文化、先入観とは異なるさまざまな文化や景観とふれあい、そこから何かを感じ取ろうとする姿勢があるか否か、である。遠出をしなくてもそれに比肩する感動を、家の近所の散歩を通じて味わえるかもしれない。逆に、どんなに素晴らしいと喧伝されている観光地を巡り歩いてきたとしても、そこでガイドブックの写真と実景とを照合、確認する「作業」をして帰ってくるだけであるならば、それはあまり実りが多いものとはならない。旅先の人々や自然、街並みを単に「傍観する」だけではなく、それらと「対話」をしようとする。それが、良き旅人たりうるための条件なのかもしれない。

実際の旅のみならず、机上の旅であれ活字の旅であれ大切なのは、そんなところがまえをいつまでも忘れないでいることなのだろう。

- |  |  |   |
|--|--|---|
| 当館で所蔵する観光関連図書の一部を紹介<br>しましょう。どの図書も分類番号688<br>～688.9の書架にあります。まだ他にも<br>多数所蔵していますので、ご覧になってく<br>ださい。 | 所 15000 日外アソシエーツ 2008                        | 文化論 古池喜和著 春風社 2007                                      |
| 1. 観光実務ハンドブック 日本観光協<br>会編 丸善 2008  | 3. 観光化する社会：観光社会学の理論と<br>応用 須藤廣著 ナカニシヤ出版 2008 | 7. ツーリズムと文化体験 安福恵美子<br>著 流通経済大学出版会 2006                 |
| 2. 日本の観光資源：〇〇と呼ばれる名  | 4. 観光学への扉 井口貢編著 学芸出<br>版社 2008               | 8. 観光まちづくり：まち自慢からはじ<br>まる地域マネジメント 西村幸夫編著 学<br>芸出版社 2009 |
|  | 5. 大学生の観光学ノート 向山秀昭著<br>改訂 国際観光サービスセンター 2007  |   |
|  | 6. 観光地の賞味期限：暮らしと観光の                          |   |

## 新着雑誌紹介

経済・経営学を専攻する学生のために「週刊ダイヤモンド」が新たに入りました。1913年創刊の伝統ある経済誌です。「週刊東洋経済」や「エコノミスト」も購入していますので、あわせて利用してください。

観光学に関しては「季刊観光とまちづくり」と「季刊まちづくり」を新規購入しました。観光と、その基盤となる地域づくりについて書かれている雑誌です。また、交通新聞社発行の旅行雑誌「ジパング倶楽部」が寄贈されています。学習・研究のみならず、旅行プランにも活用してください。

## 新着 DVD 紹介

2009年より裁判員制度が始まりました。制度に関連した DVD としては、ドラマ仕立てで描かれた「審理」と「裁判員制度：もしあなたが選ばれたら」の2本を所蔵しています。

新着劇映画では、おいしそうな料理が次々と登場する恋愛映画「幸せのレシピ」、ウィル・スミス主演のホラーアクション「アイ・アム・レジェンド」、韓国のラブコメ「カンナさん大成功です!」などの外国映画が入りました。邦画では、伊坂幸太郎原作のちょっと切ない「アヒルと鴨のコインロッカー」、日本アカデミー賞などを受賞したアニメ「鉄コン筋クリート」などです。館外貸出もできますので、ぜひ図書館に来て利用してください。

## ご存知ですか

**Q: 新聞はどこにありますか?**

**A: ラウンジと地下書庫にあります。**

【ラウンジ】には当日の朝刊と前日の夕刊があります。「朝日新聞」「毎日新聞」「日本経済新聞」「静岡新聞」「The Japan Times」「日経MJ」など。なお、ラウンジは図書館閉館後も利用できます。利用後は①窓の鍵を閉める、②消灯の2点を必ず行ってください。

【地下書庫】には前日の朝刊とそれ以前のバックナンバー約1年分があります。

※他に毎日新聞と朝日新聞の縮刷版、CD-ROM版の新聞記事データベースなどがありますが、所蔵年や所蔵場所、利用方法に違いがあります。詳しくは図書館員にお尋ねください。



**Q: 雑誌はどこですか?**

**A: ブラウジングコーナーと2階の雑誌架にあります。**

【ブラウジングコーナー】の雑誌架には最新号と約2年分のバックナンバー（古い巻号数のもの）があります。雑誌は、和雑誌・洋雑誌別に、誌名のアルファベット順に配架されています。ブラウジングコーナーはくつろいで雑誌に目を通すことができる場所です。

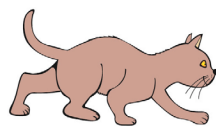
【2階雑誌架】には、ブラウジングコーナーにある雑誌より、さらに古い巻号数のものが置いてあります。書架番号C-1～9に誌名順に配架されています。

最近、ペットとして犬や猫を飼っている人は多い。ペットというより家族として接している。よく犬派猫派のどっちかと問う雑誌がある。犬はヒトに付き、猫は家に付くと言われる。これは犬と猫の性質を表す上での喩えだと言うことである。飼い主が転居の際、ペットを置き去りにすると、犬も猫も初めは飼い主の帰りを待つが、猫はテリトリー内で暮らすとのことだ。犬は飼い主を探してその場を離れる。最近、飼い主と離れ離れになった犬が、7年かけて何千キロも離れている飼い主の居住地までたどり着いたという、海外の

記事を読み感動した。

近所に迷い猫や野良猫や飼い猫の面倒をよくみるお宅がある。迷い猫はかなりの歳の雌猫でリリーと呼ば

メイプル  
・カフェ  
ーペットとヒトとー



れ、みんなに可愛がられている。普通餌を与えるヒトだけになつくと云われるが、彼女は皆になついている不思議な猫である。



犬は古くから家畜化され人間社会と関わってきた。現在でも盲導犬、介助犬、警察犬、麻薬や爆発物の探知犬、災害救助犬、セラピー犬等、人間社会に利用されている。猫は農耕文化の発達に伴い鼠退治のため人間のパートナーとなったが、どちらにしても人間である私たちも彼らから恩恵を受けていることは間違いのない。飼い主の勝手に犬や猫を捨てることは絶対にしてはならない。地域の人々との関わりにおいて、飼い主のしつけやモラルは、言うまでもなく必須条件であると思う。

きらキララ (長澤喬子)